

社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成 27 年 2 月 2 日

計画の名称	2 金沢都市圏の交通円滑化と魅力あるまちづくりにより、賑わいの創出を図る地域づくり									
計画の期間	平成21年度 ～ 平成25年度 (5年間)				交付対象	石川県、金沢市、野々市市、津幡町、内灘町				
計画の目標	都市景観や伝統文化が色濃く残る金沢市中心部では、平成26年度の北陸新幹線の開業に合わせ、美しい景観と歴史文化の調和を大切にしたまちなみ整備を行うとともに、歩行者・公共交通優先のまちづくりを推進している。一方で金沢市及び近郊市の金沢都市圏では、地方特有の車中心社会となっており、金沢中心部へ流入・通過する通勤・通学の車両が多く、慢性的な交通渋滞の解消及び自転車、歩行者の安全性確保が課題となっている。このため、交通の円滑化に資する生活幹線道路整備や、中心市街地での無電柱化、歩行空間整備等の道路交通環境の整備を進めることで、金沢の歴史文化を基軸とした魅力あるまちづくりを図る。									
計画の成果目標（定量的指標）	<ul style="list-style-type: none"> 安全・快適な交通環境を整備し、通勤・通学の利便性を向上させることにより、金沢都市圏を中心とした近郊市町村の定住者の増加等さらなる発展、活性化につながる事が予想される。 									
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考
							当初現況値 (H21当初)	中間目標値 (H23末)	最終目標値 (H25末)	
① 渋滞による損失時間 ※1年間に渋滞によって失われる時間 (渋滞による損失時間) = { (区間距離 ÷ 実際の旅行速度) - (区間距離 ÷ 基準旅行速度) } × 区間交通量 × 平均乗車人員数 × 365							2,508 万人時間/年	2,200 万人時間/年	2,000 万人時間/年	
全体事業費	合計 (A+B+C)	24,351百万円	A	22,575百万円	B	281百万円	C	1,495百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	6.1%

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
石川県において評価を実施	事業完了後 公表の方法 石川県ホームページで公開

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 金沢外環状道路海側幹線Ⅲ期区間の整備により、国道8号などの周辺道路から交通が転換し、周辺道路で発生していた交通渋滞が削減された。 (都) 疋田上荒屋線（北安江）の整備により、金沢市中心部へアクセスする円滑な交通が確保された。 				
II 定量的指標の達成状況	指標①（交流ふれあい時間）	最終目標値	2,000万人時間/年	目標値と実績値に差が出た要因	平成25年3月の「のと里山海道の無料化」や、平成27年3月の「北陸新幹線金沢開業」などの効果を金沢都市圏全域に波及させるため、集中的な投資により、完成の前倒しを行った路線があるため。
		最終実績値	1,944万人時間/年		
	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因		
	最終実績値				
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> (都) 専光寺野田線の野町地区の完成など、無電柱化による街並み景観の整備や快適な歩行空間の整備により、金沢の魅力あるまちづくりを推進し、賑わいの創出が図られた。 				

3. 特記事項（今後の方針等）

<ul style="list-style-type: none"> 平成27年2月の能越自動車道（七尾氷見道路）の開通や平成27年3月の北陸新幹線金沢開業など、石川県では新たな高速交通ネットワークの整備が進展することから、その効果を金沢都市圏全域に最大限波及させるためにも、安全で快適な交通環境を整備し、地域の発展や活性化を図る。 金沢市中心部には多くの歴史的遺産を活かした観光施設が多数存在していることから、これらの観光施設までのアクセス道路を整備することにより、渋滞の解消や移動時間の短縮を図るとともに、歩行環境の向上など、魅力あふれるまちづくりを推進することができ、地域の発展や活性化につながる事ができる。
